

学校創立70年を迎えて

学校長 梶原勝由

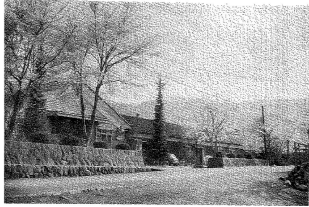
本校の歴史を創立50周年誌「蛍雪」で紐解いてみた。すると、意外な発見が多々あった。

1947(昭和22)年4月10日、新学制により谷村中学校として開校。とは云つても谷村小学校を借用しての開校。教師・生徒は、校舎が完成するまで日夜整地作業だったようだ。その甲斐があつて、二年四ヶ月を経て本館完成(1949(昭和24)年6月29日)。この完成落成日を学校創立記念日として制定。

当時の写真を見ると、木造建築の平屋建てで、生徒数は1000人を超え、修学旅行先は大島・伊東方面となつている。そして、同年11月8日校歌制定。

春風吹けば住吉の 土手の桜も蕾もち
霜と氷の冬を経て 柳も芽ぐむうららかに
ここにそびゆる学舎ぞ 我等が谷村中学校
夏暑からず秋早き 桂の川の落ち鮎の
行方は知らず 雲霧や
晴間に高き雪の富士 それを鏡と仰ぐなる
無情迅速人の世の 我等が谷村中学校
動かぬ山の立ち姿 流転の渦の中にして
学ぶはかたきことながら 動かぬ山の立ち姿
そこに真如の影をみむ 我等が谷村中学校

1965(昭和40)年4月1日、校名を都留第一中学校と改称。そのときの職員数33名、学級数23、生徒数992名。翌年9月1日には学区変更により都留第二中学校に転学する生徒が141名。そして、1967(昭和42)年3月15日、現在の校歌制定。

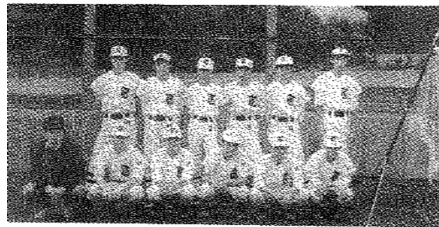


昭和40年度の校舎

われらの心に 清らかな桂の流れ 古いゆかりよびかける あかるく手をとり合ひ 学ぶわれらにきょうも 古いゆかりよびかける よびかける

われら仰ぎみる 大なる富岳の姿
風と雲がよびかける 楽しく力強く
学ぶわれらにきょうも 風と雲がよびかける よびかける
われらほこらかに 知るよ伝統のかがやき
希望かかげよびかける はばたけおのが個性
学ぶわれらにきょうも 希望かかげよびかける よびかける

この70年の間に、卒業生は13,710名。その卒業生は数々の実績を残している。県英語劇大会優勝、県ダンスコンクール優勝、全国少年野球大会優勝、NHK合唱コンクール優勝、河口湖一周駅伝大会準優勝、県中学校テニス大会優勝、県中学校剣道大会優勝、県総合体育大会体操・剣道大会優勝、県新人相撲テニス大会優勝、県新人サッカー大会優勝など(年代順に記載)



野球部関東大会出場(454)

今年度、都留一中生223名は1970(昭和45)年9月29日に完成した校舎で勉学に勤しんでいる。また、過去の実績を誇り高く胸にし、生徒会活動や部活動などに励んでいる。生徒たちの活躍を見る度に嬉しく思うとともに気高さを感じる。校歌こそ変わったが、今でも谷村中学校時の伝統が、そして魂が脈々と継がれている。そのさえたるものは応援歌。この歌は谷村中学校生も歌つていたとのこと。(谷中健児が一中健児となつているとのこと)

ああ青春の夢あらば 来たりて励め我が友よ
将来背にし努むとき 栄えある路の力かな
ふるえ くるえ 一中健児
緑葉美しき老松に 忍苦の月はありと聞く
颯爽ここに立ち向かう
聞け伝統の谷村の名
ふるえ くるえ 一中健児
高き叡智をもつ我に 勝敗何ぞ問うべきや
悔いなきプレー示しつ
友よ続けよ健斗を
ふるえ くるえ 一中健児

これから先、少子化がますます進み、生徒数は年々減少していく。そうなる、様々な教育活動

は余儀なく制限される。そうならないように、先生方とふるさとである住吉都留の地を愛し、住吉・都留から学ぶ生徒の育成に邁進していきたい。いや、邁進しなればならない。卒業生や今の一中生、そしてこれから一中生になる児童が校歌や応援歌を歌い継ぐためにも。



校訓

70周年記念行事 教育講演会

教養委員会 福本 絵梨

私達教養委員会では、10月21日の土曜参観の後、本校体育館にて教育講演会を行いました。山梨日立建機会長の雨宮清さんにお越し頂き、『地雷のない平和な大地を』と題して、社会貢献のあり方や、平和な社会について講演して頂きました。本校70周年記念行事という事もあり、これから支えていく生徒たちにとつても、また、保護者にとつてもとても貴重な会になったかと思ひます。聞きとり易いお話とスライドを交えたお話であつたと言つても過言ではないと思ひます。雨宮さんは地雷除去をする為の機械を開発し、全世界へと広めています。また、自分の行つて来た事を、全国各地で講演しているそうです。その様な貴重なお話を直接ご本人から伺う事ができ、私自身、とても考えさせられることが多くありました。これからの社会で生きていく子供たちにとつても、大切な時間であつたと思ひます。



モノづくりを通しての国際貢献

地雷除去に挑む 皇から平和な大地への復興

この会を開催するにあたっては、先生方にご協力を頂き、ありがとうございました。ご参加頂いた保護者の皆様、教養委員会の役員の皆様、ありがとうございました。

都留市義務振興集會

PTA会長 遠山廣明

毎年行われる都留義務振興集會が「心身ともに健全で人間性豊かな子どもを育成を目指して」というテーマのもと、今年も行われました。学校から都留市に対して、施設や通学路・その他学校環境をより良くするための要望を出し合い、共通認識をもつて、市に対して陳情を行いました。

あわせて、普段保護者の方が感じている悩みや疑問・本集會で話題提起されたことについて、教職員のアドバイスを交えながら同じ保護者同士で共有し、ほかの保護者の考え方を知る機会となつていきます。

陳情については市の予算のことなので、お願いしたことがすぐに実現できるかどうかは難しいところです。しかし児童生徒の保護者として、児童生徒の安全確保・より良い学習環境の確保を目指し、市へ要望・陳情を続けていく必要があります。

各学校の陳情内容発表のあと、話題提起とディスカッションが行われました。話題提起は「都留市の子どもたちの学力の現状」というテーマで行い、SNSの使用時間と学力の関係やルールのことなど、データを示しながら、わかりやすく説明していただきました。ディスカッションの時間は、保護者の皆様が子どもへの勉強時間やスマートフォンへの対応について、お互い意見を交換し合いました。

今回参加ができなかった保護者の方は次回参加をしてみてくださいますようお願いいたします。ほかの保護者の話を聞くだけでも参考になりますし、有意義な時間となることでしょう。



親子美化作業

ボランティア委員会

尾形恵一

「子供たちが新学期、すみよし祭をより良い環境の中で気持ちよく迎えられるように」との趣旨で、8月19日(土)午前7時30分より、PTAボランティア委員会主催による「親子美化作業」を行いました。保護者の皆様におかれましては、お忙しい中、また早朝よりお集まりいただきありがとうございます。生徒129名と保護者120名で校庭の草むしり、側溝の土砂の除去、校舎周辺の草刈りなどを行いました。



ぬかるんでいる所や湿気等、作業環境は決して良いものではありませんでしたが、事故や怪我も無く無事終了しました。校庭、校舎周辺がきれいになり子供たちも気持ちよく新学期、すみよし祭を迎える事ができました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

各学年ボランティア委員の皆様、準備・後片付け等々お疲れ様でした。

また、前々より準備を重ねていただいた進行役の山口先生をはじめ、先生、担当の先生方、ありがとうございました。



第52回

すみよし祭を終えて

生徒会長

山口 敦也

一、二年生の時にすみよし祭を経験し、三年生になった今年、最後のすみよし祭となりました。第52回という伝統のあるすみよし祭。緊張感と責任感が湧いてきました。一学期から取り組みが始まり、夏休み中も活動する人もおり、着実に前に進みながら二学期に入り、「百花繚乱」というテーマやシンボルマーク、テーマソングが決まり、本格的に取り組みが始まると、全校が一丸となっていくのを感じました。今年は一、二年生が三クラス、二、三年生が二クラスで、ブロックをどう編成すればよいか話し合い、例年より少ない二ブロックで行うことになりました。

迎えたすみよし祭当日。二ブロックということもあり、文化の部も体育の部も白熱したものと、大成功を収めました。最後、三年生のムカデ競争で大雨が降りましたが、全校全員が三年生と共に走り、応援する姿はとても感動的でした。私は生徒会長として、心配なことや不安になることもありましたが、そのたびに先生方や全校生徒のみなさんに支えられ、助けられました。みんなが成功させたすみよし祭。支え合い、助け合いの素晴らしさに気がつくことができました。とても貴重な経験となりました。ありがとうございました。これからも支え合い、助け合い、合つて、さすが一中生だと言われるように成長していきたいと思えます。先生方、保護者の皆様、地域の皆様、これからもよろしくお願ひします。



一年学年生徒会長

山口 陽也

四月に入學して中学校生活で初めての一学期が終わろうとした頃、すみよし祭の取り組みが始まりました。中学校の生活に慣れてきた時に、初めてのすみよし祭という大きな行事を前にして、すみよし祭ってどんなものだろう、どう取り組んでいくのだろうと不安でいっぱいでした。学年生徒会を中心に活動を進め、先輩方の力になれるよう、学年全員でがんばりました。時々意見がぶつかる事もありましたが、力を合わせて活動しました。合唱では、小学生の時と違い、きれいな声で歌うのが難しかったです。心を込めて歌うことができました。上級生の歌声はとても素晴らしく、特に三年生は本音が響いてきました。これを受け継ぐことが私達一年生の役目なのだと感じました。体育の部でも、入場行進から得点がつき、各種目で全力で取り組みました。三年生のソーラン節はとてもかっこよく感じました。初めてのすみよし祭で先輩達の一生懸命な姿を見て、これが伝統なのだと感じました。



二年学年生徒会長

福田 颯

学年生徒会長としてすみよし祭の取り組みの初めのことでした。取り組みのなかで、二年生になり、三年生を支え、一年生を引っ張っていくと言ったことはとても難しく、徐々に不安が募っていきまじつた。そんな不安を吹き飛ばしてくれたのは、二年生の仲間たちでした。昨年の経験を活かして、私たちが学年生徒会に協力して、祭にすることができました。このすみよし祭での成果は、「みんなが一丸

となり、全力で活動に取り組むことができました」ということです。そして、すみよし祭を通して、みんなの絆がもつと深まってくれたのを感じました。この活動で得た団結力を来年にもいかし、最高学年として一、二年生をリードできるようにし、この都留第一中学校の名に恥じないような三年生になつていきたいと考えています。また、三年生では修学旅行があるので、すみよし祭の時のように、学年全員で協力して修学旅行を成功できるようにしたいと思います。



三年学年生徒会長

村野 哲太

私たち三年生は、すみよし祭を通して、とても成長したと思えます。今年が最後のすみよし祭だったので、一組、二組ともに最高のすみよし祭にしようという一人一人の気持ちがとても強く感じられました。取り組み中は、クラスの中でも二つに割れてしまふことなどたくさんありました。ですが、クラスの中心である人たちが声をかけ合い最後の最後まで戦い抜き、最高の思い出をつくる事ができました。しかしまだ成果だけではない、目標にしなければならぬ事も出てきました。それは、メリハリをつける事です。盛り上がる時は盛り上がる、人の話を聞くときは話をしっかり聞くなどの事をしっかりと直していきたいです。そして、最後の目標は、受験です。一人一人が進路と向き合っていくことが大切だと思います。まずは、日々の授業を大事にしていく。そして、受験は個人戦ではなく団体戦だということを知ることがあります。だから、あのすみよし祭の時のように、クラス、学年で互いに高め合い、最後に笑って卒業できるように、勉強面、生活面ともに力を入れていきたいと思えます。



編集後記

学園祭、新人戦など勉強以外にも忙しく慌ただしかった二学期もアツという間に終わりを迎えようとしております。様々な行事を経験する中で生徒たちは一学期よりも更にいろいろな面で成長したことでしよう。目の前には冬休みが待っています。一、二年生においては二学期の復習を三年生においては受験勉強のラストスパートをしっかりと頑張ってくださいと思います。

また、今回も『瓦版』編集にあたり、ご協力して頂きました皆様方にはとても感謝をしております。色々ありがとうございました。

今年も残り僅かですが体には充分ご自愛頂き、新しい年を楽しく無事に迎えられるよう心からお祈り申し上げます。次回で最終回の第三号『瓦版』もお楽しみに。

委員長
副委員長
委員

担当教諭

- 古屋 昭光
- 日向 有里
- 田代 晴美
- 谷内 合子
- 中島 光美
- 尾形 直子
- 小林 正芳
- 小俣 あけみ
- 宮澤 絵理子
- 宮澤 美優希
- 小澤 ゆり
- 渡邊 真五
- 渡邊 文香
- 早川 麻里
- 分部 茜



